



専務理事 柴崎 稔

この春休み期間中に、中学生の娘が地元教育委員会主催事業の青年大使としてニュージーランドへ訪問してきました。鯉のぼりや折り紙等を持参しての文化交流を積極的に行ってきたそうで、現地の子ども達はみんな日本文化に関心があり、意欲的に接してくれて、とても有意義な時間を過ごしてきたとの事でした。娘はこの機会を通じ、改めて自国の文化を見つめ直し、そして、日本人であることを誇りに思い帰国したようです。近年の多種多様な文化・慣習の浸透により、日本人は最も身近な「誇り」をほんの少しだけ見失いつつあるのかもしれませんが。五節句文化をはじめ、日本の伝統文化の継承が危ぶまれる昨今ではありますが、決してその精神性までもが失われたのではなく、日本人の心の奥底にはその灯火が絶えることなく存在していると私は信じております。

文化薫る美しい国、日本。世界に称賛される国、日本。もう一度呼び覚まそう、誇り高き日本の伝統文化を！

★継承する会「ゴルフ愛好会」活動情報！★

平成30年10月16日火曜日、今回で第2回目となる継承する会「ゴルフ愛好会」ですが、岡山県玉野市のある「東児が丘マリンヒルズゴルフクラブ」にて晴天の下、開催いたしました。石川遼選手が史上最年少で初優勝したコースとしても有名です。参加人数がまだ少ない会ですがこれからも開催していきますので皆様奮ってご参加ください。

(ゴルフ愛好会 岸本和豊)



五節句について

《7月7日》七夕の節句（笹竹の節句）

七夕の節句（節供）は、日本古来の「棚機津女信仰」（たなばたつめしんこう）と中国の「乞巧奠」（きこうでん）・・・牽牛織り姫伝説）が結びついたもので、江戸時代には五色の短冊に詩や願い事を書き、竹に飾ようになりました。

また、七夕は神に捧げる収穫祭でもあり、小麦や野菜は欠かせない供え物でした。

地方によっては、竹節りの他にわらや紙などで人形・牛・馬などをつくり、軒下や家の入り口、外の木枝に飾り、人形に厄を託して吹き飛ばしてもらう祈りの行事でした。



《9月9日》重陽の節句（菊の節句）

重陽の節句（節供）は、「菊の節供」とも呼ばれ、平安時代より不老長寿を願い、菊にまつわる行事が行われていました。

この日は、秋の収穫祭でもあり人々はお神酒に菊の花を添え、稲、栗などをお供えて、神に感謝をし無病息災を祈りました。

古代中国では、菊の花を浮かせた酒を飲むと菊の芳香と花の気品の高さによって邪気を祓い、寿命が延びると考えられてきました。この習俗が

日本に入り旧暦九月九日に初寒を退け、長寿平安を願うという「重陽の宴」が生まれ、宮中や武家社で盛んに行われたということです。



そもそも 節句（節供）とは

節句とは、奈良時代に中国から伝わった暦の上での風習が日本の風土、くらしに合わせて取入れられたもので、季節の節目に無病息災、豊作、子孫繁栄などを願い、お供え物をしたり、邪気を祓う日本の季節行事として根を下ろしました。江戸時代に幕府が公式に五節句として祝日と定め、民衆に広まってゆく間で形を変え、今のようになつたと考えられます。節句には、その季節に合ったものを神様に供え、それを家族や地域の人々で分かちあいます。折りを共にすることで人々の絆を深める行事であり、日常の雑事を忘れて身体を休め、日頃あまり口にできない滋養のあるものを食べて鋭気を養う貴重な機会でもあります。

【監事からの視点】

京都の伝統産業を堪能できる京都伝統産業ふれあい館が、昨年世界最大の旅行口コミサイトトリップアドバイザーが発表する「トラベラーズチョイスアワード2018」で国内の人気の美術館・博物館ランキングで5位に選ばれました。このふれあい館では、京都の伝統文化をテーマとした企画展をはじめ、職人による実演、様々な趣向を凝らした事業を展開し、京都の伝統産業の魅力発信に取り組んでいます。確かに最近国内外の観光客や修学旅行の学生で賑わい、深く伝統産業の魅力を知っていただける場所として京都市も力を入れています。京都の伝統産業74品目どれをみても五節句との関わりがあるものがほとんどで、ぜひ京都へ来られたら訪れてみては如何でしょうか？

参考までに「トラベラーズチョイスアワード2018人気の美術館・博物館ベスト10」は、下記の通りです。

- 1位：広島平和記念資料館、2位：箱根彫刻の森美術館3位：竹中大工道具館、4位：サムライミュージアム、5位：京都伝統産業ふれあい館、6位：豊島美術館、7位：東京都江戸東京博物館、8位：トヨタ産業技術記念館、9位：長崎原爆資料館、10位：根津美術館



監事 伴戸恒夫

内部広報誌を作成する際、外部に構成や作成を委託しようと思っていたのですが、予算の関係もあり、記事の割り振りや印刷などは広報委員会が作成することとなりました。手作り感満載なところは、ご容赦下さい。しかし、記事・情報などは会員皆様のご協力によって投稿頂き、構成されております。

改めて、会員皆様のご協力で感謝致します。

今後、内容も充実させていこうと思っているので、ご意見やアドバイスなど頂けましたら幸いです。

広報委員会 委員長 小田洋史



継承

【第2号】2019年 5月発行

【徳永会長の今後の方針】



会長 徳永深二

会員の皆さま方には、平素から節句文化の継承活動に、ご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。「伝えよう未来へ、日本の節句文化を！ 私たちが伝えたいもの、残したいこと！」

平成から元号も変わり新たな時代を迎えました。今振り返ると、平成の時代31年間で日本の節句文化の伝承が、核家族化による住宅事情や、少子化、外来文化と混在する環境の中で過去にないぐらい薄れたと思います。江戸の中期から各家庭で伝承されてきた、日本独自の五節句文化は、それぞれの行事が各家庭で行われる中で、両親や家族、祖父母、親族、近隣の人たちと触れ合いながら子ども心に、礼儀や作法、

敬う心など日本人としての気質、日本人らしさを育んできました。今、生きる者として、世界に誇れる日本人の育成の一翼を担ってきた、日本の五節句文化を後世に伝え、未来に残す責任を感じます。昨年度、文化庁訪問時に、2020年オリンピック・パラリンピック開催年に、政府が日本の文化を国内外に発信する事を目標に「日本博」の開催をするとの情報を文化庁の担当部署の方から頂きました。日本の節句文化を継承する会は、五節句文化の発信をするチャンスと捉え、日本博への参画を予定し企画中です。また、日本の節句文化を、ユネスコの無形文化遺産に登録できれば継承活動の大きな力となります。登録には困難も予想されますが、一步一步、研究、勉強を積みながら登録を目指します。

これからも、日本の節句文化を継承する議員連盟の先生方、文化庁の皆さま方の、ご指導を頂きながら文化の継承を進めて参ります。会員の皆さま方には今後とも、ご協力とご指導をお願い申し上げます。

【副会長の動向】



副会長 金林健史

昨今、日本の若者は伝統と言うものに興味が無くなったと言われますが単純に知らないのではないのでしょうか。

何が日本の文化で何が大切なのかどうかを家族から聞くことも少なくなり多くの情報をネットからの得る時代こそ伝統文化の発信が必要だと思って居ります。東京都教育委員会では日本の伝統・文化理解教育は子供たち自身が今日の視点から我が国の伝統や文化をとらえ直し、日本のすばらしさを誇りに思うと同時に、世界の中で日本人としてよりよく生きていくために、何をどのように生かしていくかについて理解し実践する教育のことで目指す子供像として

- ① 自分の身近な地域や自国の伝統・文化の価値を理解し誇りに思える子供
- ② 自国の伝統や文化を世界に発信できる資質や能力をもった子供
- ③ 他国の伝統や文化を理解し尊重するとともに、お互いに文化交流ができる子供

としています。当協会と致しましてもこのような教育に積極的に協力して参りたいと考えて居ります。

熱意のある若者よ集まれ！

近年の人形業界は、出口の見えない低迷期に入ってしまったような気がします。

節句離れや使い回し問題は、長きに渡り議論されてきましたが、目立った効果は感じられません。当会の目的は、

「日本の節句文化を世界遺産に」ということですが、指定されたら売れるようになるのか、という問いかけがよくあります。勿論その保証はありませんが、マスコミの取材や報道の力により、日本のみならず世界に、この古き良き文化が発信されることは間違いありません。

昨年から、先に指定された和食文化の団体は、五節供料理の普及に力を注いでいます。このように指定されて終わりではなく、次々継承するためのアイディアを発信していかなければなりません。これは、これから先何十年も節句人形を生業としていく若者にしか出来ません。当会の活動には人材が不可欠です。私達の業界を後世に継承するために立ち上がりましょう。



副会長 倉片順司

人形業界の活性化は、「五節句をユネスコの無形文化遺産に登録すること!!」です。五節句は、伝統的日本社会の根幹を成す大事な文化です。当業界は、「五節句が存在することで存在する」と言っても過言ではありません。来年は、オリンピックの年でもあり、私達業界は、一丸となり五節句を全国に、全世界に広報、普及する絶好な機会です。

昨年の大きな飛躍・実績は「日本の節句文化を継承する議員連盟」が設立されたことです。また、無形文化遺産に登録された和食の会が「五節供プロジェクト」として、昨年四月から取り組みを開始したことです。議員連盟の設立で文部科学省、文化庁が私達の味方になり、ユネスコへの登録を共に推進して下さるものと思います。勿論、そのハードルは低くはありませんし、その道のりは厳しいものと思います。和食の会は、大企業も数十社入会されており、大きな予算で五節句の普及に取り組みられ、全国への伝播は以外に早いと信じております。



理事 戸塚 隆

過去に起きた、五節句に関わる大事件といえば、間違いなく五節句廃止の出来事でしょう。

明治六年(1873年)に、江戸以来の式日である五節句が、明治新政府による五節句廃止の布告をもって廃止となりました。その際、私の高祖父である八代目徳兵衛は人形業界の代表として、白装束を着用し水盃を交わして、明治新政府に対し決死の覚悟で陳情に出かけ、必死の陳情の甲斐あって、節句を祝う民間の風習を残すことに成功しました。こうして、特に人形業界にかかわりが深い三月・五月をはじめとする節句の風習が民間において安心して継承される素地ができ、現代に至るわけですが、いまや、風習を継承するという意識そのものが危うい状況となっております。

140年以上の時を隔てて、私が当会に参加していることは、何か不思議な縁を感じざるを得ません。微力ながらも、できる限りの力を尽くしていきたいと思いますので、宜しく願いいたします



理事 山田徳兵衛

節句とは、季節の変わり目の変化に対して、お変わりありませんかという挨拶のように、大切に（気を付けて）過ごそうという文化と考えます。そこには、共食信仰といわれる節供文化があります。その為に、節句には、神様にうちに来てもらいお供え物（飾り物も含む）をして、お願い事をする機会を作ってきたと言っても良いように思います。これは、かなり日本独特の神様の考え方で、八百万の神の国でなければ、考えられない信仰の形なのだと思います。一般に宗教とは、固定の神を信じ、戒律を設け従わないものは、認めないというものです。このために現代でも宗教戦争が行われます。日本の節句文化は、農耕民族であった日本人が、自然と共生していくための知恵であり、畏敬の念から生まれてきたものだと思います。誰かが号令をかけるわけでもなく、唯、うちの中で、家族（親族）の幸せ、人としての成長、平穏無事を願ってきたそんな祈りの文化であると考えています。この祈りの文化を継承していくことが、最も大切と考えます。

（上巳の節句や端午の節句もその中の一つです。）



理事 吉田哲也

価値をつなげる。

インターネットは世界中を繋ぎ、今や欲しいものがあればパソコンやスマートフォンの画面を通じ、指先一つで世界中から手に入れられる時代になりました。この利便さはくらしに大きな恩恵をもたらしましたが、得ることに対する感動も薄まりすこし寂しい気がします。誰でも等しく簡単にものや情報を手に入れられる現代、ただそれだけであれば世界中に溢れ、それらが生み出された歴史や技術などの背景が見えにくくなり特別な価値観を持つことが難しくなっているのかもしれません。

日本の節句文化を継承する会の活動を通じ、国際的に高い評価を受ける日本人の精神性を育んで来た節句文化に対する価値や想いを広く伝え共につないでいけるなら、そんな明日はとても豊かですてきではないでしょうか。



理事 和田幾久郎

20年前の春、私の家では長女の初節句を記念して、今は亡き主人と父が桃の木を植樹してくれました。雛人形を飾って家族が集まり、今年も咲いた桃の花を見て、改めて節句文化の魅力を感じるこの頃です。季節が巡ってくる度に毎年繰り返し、じわじわと伝わってくる家族からの愛情、オーバーアクションが苦手で奥ゆかしい日本人ならではの、少し遠回して丁度良い愛情表現、それが節句文化の中にあり、日本人らしさといわれる性質の根幹になっているように思います。

節句文化で愛情を与え合える幸せな家族が、50年後も100年後もたくさん生まれる事を願い、今後も活動していきたいと思っております。

昨年度より、総務委員会の会計係を仰せ付かっております。会の大切な資金をお預かりし、適正かつ明瞭な会計を目指して活動をして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



総務委員会
会計 徳永タ子

日本の節句文化を継承する会 事業・活動報告

若者のチカラ結集！

「未来への懸け橋」構築事業

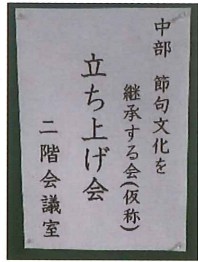
平成29年10月18日（実施中）

全国7か所での全国節句人形従事青年層による「未来への懸け橋」構築事業若手座談会を終え、各地の参加者より様々な貴重な「声」が寄せられました。全国統一（又は地域統一）のPRツールの作成及び活用必要性や、啓蒙に向けた企画ノウハウの情報共有化（全国での模範例・成功事例の開示と情報共有）の必要性など、数々の意見が寄せられました。

これらのアイデアをさらに進化発展させ、実現可能な形へ具現化するべく、「未来への懸け橋」構築事業セカンドステージとしてのプロジェクトチームを招集し、全国ミーティングを開催する予定です。チーム立ち上げに際する人選や、今後の事業予算や運営費の問題もありますが、まずはやれる範囲でやれることから推し進め、全国の若手従事者がより一層活発に意見し活動できる仕組みを模索・構築することにより、節句文化の継承と業界の産業振興に向け、力強く歩みを進めてまいります。

「誰かがやってくれるだろう・・・」などという他人任せな思考は止め、一人一人が令和の新時代を生きる責任世代の使命感を持ち、明るい未来への懸け橋を構築していきましょう。

《記事》専務理事 柴崎 稔



「未来への懸け橋」構築事業をきっかけに、中部地区若手の皆さんが「予祝の会」を立ち上げられました。



五節供に和食を



和食の会が五節供プロジェクトを始めた。

和食は、五年前にユネスコ無形文化遺産に登録されましたが、和食文化国民会議の事業として、昨年四月から「五節供プロジェクト」と銘打ち、取り組まれたことは私共、人形業界にとり大変有難いことであり、ビッグニュースです。この会各社の目論見は勿論、食材、食品をより多く家庭に届けようということです。各社はもう既に五節供に因んだ商品を開発して、量販店の担当者に、まず五節供の意義を説明し、売り込みを始めております。

「節供には、ひな人形、五月人形を飾り、鯉のぼりを揚げましょう！」と言うことは、期待できませんが「五節供本来の意義を社会に普及、啓発して下さる」のは、有難いことと致しましょう。

「五節供プロジェクト」は、五節供を中心とする講演会、研修会を今迄に五回実施しています。私共、東玉は、この内三回会場に五節供の人形を展示し、会の盛り上げに協力させてもらっております。

この会の会員は、大手の食品会社、和菓子、日本酒など数十社の企業や団体が所属されており、力のあるこれらの方々方が五節供に取り組み、意外に早く社会に、全国に五節供が浸透するのではないかと考えております。尚、和食文化国民会議の皆さんは「節句」ではなく、完全に「節供」としているので、私共も今後、検討が必要かと思ひます。

《記事》理事 戸塚 隆

研修会

「知っておきたい相続と

事業継承のキホン」

講師：細野達男氏

平成30年12月21日実施

講師の細野達男氏は、有限会社マルタツの代表取締役を務められ、NPO法人首都圏定期借地借家権推進機構認定借プランナー（上級職）、NPO法人相続アドバイザー協議会認定会員で上級アドバイザーでもあられます。もともとはJAでの相続問題専門の部署に勤務されていたそうです。研修会では8パターンの家族構成の実例を基にご講演して頂きました。節税と分割は違うということ。信託は銀行などでも出来るが自分や家族でも出来る。対策としてどの様にしておけば良いのか。色々なパターンがあることも教えていただきました。大切なことは、まず戸籍をよく調べておくこと。ハンコ代は支払える金額以内にしておくこと。遺言書を作成しておくこと。子どもがいなければ遺言書を作成し、相続人を決めておくこと。相続人を決めておくことで相続をスムーズに進めることが出来る。相続放棄が出来るのは、亡くなってから3か月以内でなく、亡くなったことを知ってから3か月以内でなく相続放棄出来る。借金も財産であること。遺言書は法務局に預けることも出来る。などなど私たちが今後必ず経験するであろう相続のことを楽しく分かりやすくご説明いただき大変勉強になった研修会でした。

《記事》節句文化継承委員会 岸本和豊



日本の節句文化を継承する議員連盟

との連携会議と懇親会

平成31年2月21日実施



去る2月21日に衆議院議員の逢沢先生が会長を務めてくださる『日本の節句文化を継承する議員連盟』の先生方との懇親会が紀尾井町ホテルニューオータニにて開催されました。

当日は、会期中のお忙しい中、逢沢会長、副会長の柴山文科大臣をはじめ各地域10名の先生方が出席くださり先生方には参考資料などもご用意戴き美味しい中華料理を囲み大変有意義な時間を過ごすことができました。

和やかな中にも各先生方の各地の伝統文化行事のお話や節句に対する熱い思いもお聞きすることができ、更には柴山大臣からも「文化庁としてしっかり取り組んで行く」との大変有り難いお言葉も頂戴することができました。我々の思いや目指すところもしっかりとお伝えでき、大きな前進をしたと思っております。懇親会の最後には関西を中心に活躍されているグループのミニコンサートのサプライズもご用意くださいました逢沢先生には厚く御礼申し上げます。

引き続き『日本博』への参加や今後の行事につきましても議員連盟の先生方と連絡を密にして進めて参りますので会員皆様におかれましては、より一層のご協力をお願い申し上げます。

《記事》副会長 金林健史